2023 年第 3 回 IEEE 東京支部理事会　議事録（案）

日　時：2023 年 9 月 11 日（月）15:00～17:30
場　所：サイバーエージェント会議室
出席者：相澤 Chair、佐田 Vice Chair、奥村 Secretary
<以下、敬称略・順不同>
添谷 COC Chair、森田 FNC Chair、中村 NC Chair、松尾 TPC Chair、植村 SAC Chair、廣畑 PC Chair、河東 HC Chair、太田 LMAG Chair、石垣 YP Chair、重松 Past Secretary、前原 Past Treasurer、西宮 SIGHT Chair、滝嶋 Tokyo SIGHT Vice Chair、野添 JO Director, Japan business operations、梶川 JO Executive Administrator
事務局：加藤
幹事会社：金、木村

議題：

1. 前回理事会議事録の確認【審議】（資料 1）
2. Japan Council 理事会(2023 年第 2 回)報告（資料 2）
3. 2023 年中間会計報告（資料 3）
4. 委員会活動報告
- Chapter Operations Committee（資料 4-1）
- Fellow Nominations Committee（資料 4-2）
- Membership Development Committee（資料 4-3）
- Technical Program Committee（資料 4-4）
- Publications Committee（資料 4-5）
- Student Activities Committee（資料 4-6）
- History Committee（資料 4-7）
- Nominations Committee（資料なし）

5. Affinity Group 活動報告
- Life Members Affinity Group（資料 5-1）
- Young Professionals Affinity Group（資料 5-2）
- Women in Engineering（資料 5-3）

6. その他
- R10HTC2025 開催について（資料 6-1）
- SIGHT 報告（資料 6-2）
- 東京支部会員へのメール配信について（資料 6-3）

【議事】

０．IEEE 東京支部相澤 Chair より開会の挨拶

相澤 Chair より開会の挨拶があった。

１．前回理事会議事録の確認　　【審議→承認】　　（資料 1）

奥村 Secretary より前回理事会の議事録について説明があり、審議・承認された。

２．Japan Council 理事会(2023 年第 1 回)報告　　（資料 2）

奥村 Secretary より JC 理事会（2023 年第 2 回）での内容について報告があった。

AC では Fellow の増加について議論があり、Fellow に関する新しい Committee ができるので、そことの連携も議論された。IPC の議論では、DL 講演会の積極的な開催に関し、企業側の希望の DL 講演者の選択をサポートしていきたいという話があった。MDC からは関西支部など、既に行われているシニア増強の取り組みなどを共有化し、全体に広げたという報告があった。YP については、東京支部の活動を名古屋でも取り入れて、全国展開して運営していくとのことだった。

Ad-hoc の活動に関しては、Fellow Elevation Supporting Ad-hoc Committee と Promotion Ad-hoc Committee が承認された。Promotion Committee は SNS を使用した学生や若手向けの情報発信をすることで会員増加を図るのが目的である。MGA については、今後 Award の新設の際は MGA の事前承認が求められており、決められたフォーマットに従い、申請する必要がある。今後はフォーマットに従った申請をお願いしたい。インボイスについては、申請しないこととなった報告があった。

3. 2023 年中間会計報告　　（資料 3）

樋口 Treasurer の代理として、奥村 Secretary から配布資料に沿って 2023 年中間会計の報告があった。

Chapter Rebate が増額となっている。また、LMAG の前回の予算に多少超過があったが、ファンドを獲得できたため、予算内で実施できた。また、Section Congress に 1 名追加で参加して頂いたので、その分の予備費に支出が計上されている。

また、前原 Past Treasurer から補足があり、Chapter Rebate の増額は当該の Chapter に送金する前に一時的に増額になっている状況との説明があった。

4. 委員会活動報告

・ Chapter Operations Committee　　（資料 4-1）

添谷 COC Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。

#59805 (TCS)の件については、現在主催者側に確認し、関連支部の負担は無いことがわかった。9 月 11 日の時点では関連支部の審議に移っている。この 2 か月で 3 件の申請があり、活発に動いている。Chapter が関係しない Section や JC での Sponsorship の承認手順は『国際会議 Sponsorship の承認手続きについて』を徹底したい。来年から JC COC 業務の一部を東京支部 COC が負担することが決まっており、今後進める。

・ Fellow Nominations Committee （資料 4-2）

森田 FNC Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
他学会への働きかけについてだが、馬場 FNC Vice Chair を通じて応用物理学会が協力してもらえることとなり、11 月頃には Fellow 宛てに案内してもらえる予定。情報処理学会に関しては、ホームページに記載されている Fellow リストをもとに、国内産官機関の対象者に窓口を通した働きかけの依頼を検討している。また、JC 内に設立された Fellow Elevation Supporting Ad-Hoc Committee にリエゾンメンバーとして参加し、適宜情報交換を行いながら活動する予定である。

質疑応答では、情報処理学会にこちらの活動をお伝えすることについての議論があり、森田 FNC Chair がお伝えするとの回答があった。

・ Membership Development Committee （資料 4-3）

賀屋 MDC Chair の代理で奥村 Secretary より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
Graduate Student Member が増加している。Senior Member 増加の取り組みとして、先週セミナーが開催されたので、次回の理事会でその結果を報告して頂こうと思っている。継続会員ピンバッジと Senior Member 昇格メダルに関するアンケートを実施したところ、90%以上の方から「満足」という結果だった。

・ Technical Program Committee （資料 4-4）

松尾 TPC Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
第 5 回、6 回、7 回の講演会を開催した。前回の理事会で講演のタイトルが難しいという意見があったことを受け、講演者とも調整しわかりやすいタイトルに変更する工夫をしている。また、申し込みサイトへの図の挿入、機械振興会館内にフライヤーを掲示頂くなどを行っている。11 月、12 月も講演者と準備を進めている。

・Publications Committee （資料4-5）

廣畑 PC Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
東京 Bulletin149 号の発行を発行し、理事会の内容や LMAG のイブニングサロンなどを掲載した。また、IEEE 会員資格更新についての案内も行った。今後についてだが、予定通り

2 年間で 12 件ほど東京 Bulletin を発行する予定で、順調に進んでいる。また、杉江先生の記事が R10Newsletter に掲載された。

（※議題順番変更により、Student Activities Committee は SIGHT 報告の後へ）

・ History Committee （資料 4-7）

河東 HC Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
Milestone 申請が着々と進んでいる。奥村カーブと商用セルラーシステムを一つの Milestone として申請する予定だったが、アドボケートの勧めに従い分割して申請することになった。奥村カーブについては、費用負担（IEEE VTS と VTS Tokyo/Japan Chapter の Co-sponsor）や開催のあり方(授賞式は東京支部が主催、記念講演の一部は VTS が主催など)という側面で、新しい事例として進めている。Milestone の式典準備中の TRON リアルタイム OS に関して、準備は TRON フォーラム主導で進められている。式典には IEEE からのゲストが来る予定だが、同時期に仙台支部の垂直磁気記録の授賞式にも出席予定である。

質疑応答では、TRON の式典の司会進行を奥村 Secretary が担当するが、招待者の最近の詳細情報（どういう関係の方なのか）がないなどの議論があり、相澤 Chair が式典の準備に関する現在の状況を長谷先生に確認するとのコメントがあった。また、仙台支部の垂直磁気記録の授賞式の参加資格についての質問があり、加藤さんから確認するとの回答があった。

・ Nominations Committee

中村 NC Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
次期（2026 年から 2028 年）役員選出のための作業を進めている。スケジュールは前回実施のものを踏襲する形である。2023 年第 4 回の理事会にて選出のためのスケジュール案を提出する。2024 年 5 月頃を目途に、新候補者名を提出してもらい、2024 年第 2 回理事会で承認してもらう。その後、東京支部会員に候補者を告知する。

5．Affinity Group 活動報告

・ Life Members Affinity Group （資料 5-1）

太田 LMAG Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
今年 6 月から 9 月の間に講演会を 3 回（共催分も含む）開催した。また、LMAG-Tokyo ニュースレター（第 38 号）の発行や、IEEE R10 Newsletter への Tokyo LMAG イブニングサロンの投稿などを行った。

・ Young Professionals Affinity Group （資料 5-2）

石垣 YP Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。

約 3 年半ぶりに主催イベントを対面式で開催するなど大きな変化があった。YP Salon 2023 として、内部勉強会を開催しているが、次回 9 月 17 日開催予定の会は関西支部等他支部にも参加してもらえそうなので、ネットワーキングや知識・スキル取得の場、あるいは学生や若手会員を活動に引き込むための場になるよう活動を進めていく。学生向けのキャリア系のイベントは、9 月に開催予定だったが、東京支部 SAC と調整し 10 月 28 日に変更した。本件に関する予備費を計上する予定である。

質疑応答では、子供向けイベントは非常に意義のある活動であり、東芝の未来科学館でも子供向けイベントを開催しているとのコメントがあり、石垣 YP Chair が参考にするとのコメントがあった。

・ Women in Engineering （資料 5-3）

Kawamoto WIE Chair の代理で、西宮 WIE ExCom 役員より配布資料に沿って活動状況の報告があった。

6 月に Online "One-cup-of-coffee" days for celebrating International Women in Engineering Day(INWED) and IEEE WIE Day 2023 を主催した。本イベントには、UCI（The University of California, Irvine）の SB の学生を招待し参加頂いた。また、8 月に SIGHT-Tokyo "IEEE Humanitarian Activity Workshop in Japan2023"を共催し、Kawamoto WIE Chair がオンラインで、複数の WIE メンバーが現地で参加した。今後は 12 月 2 日に WIE 2023 annual symposium 開催を予定している。2022 年までは JC WIE Coordinator 予算で開催していたが、開催時期の都合でファンドを申請できないため、SB 等と共催することでの予算確保を検討している。

６．その他

【IEEE Section Congress 2023 報告】 （資料 6-1）

奥村 Secretary より配布資料に沿って報告があった。

2020 年は開催されなかったため、6 年ぶりの開催となった。開催地はカナダのオタワで参加者は 1,200 人以上。東京支部では従来の予定より 1 名多い人数での参加となった。追加となったのは YP のメンバーで、報告書も出ている。今回のテーマは“Enabling Leaders to Build a Sustainable Future”。複数のセッションがあったが、個人的に注目したのは、学生から YP へどうつなげるか、新しい活動提案について表彰する取り組み、Industrial HUB 構想など。最後の Closing Ceremony では 3 つの提案（Provide continuing incentives to volunteers、New Officer Planning Email、Publish a database of answers to “Why IEEE?”）が採択され、今後実現していくと思われる。

【SIGHT】 （資料 6-2）

西宮 SIGHT Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
資料にはないが、YP の小学生向けのイベントを共催した。また、8 月に IEEE Humanitarian Activities Workshop in Japan 2023 を開催し、3 名の講演者の方にご講演頂いた。現地で 37 名、オンラインで 35 名に参加頂くことができた。イベントに関するアンケートも実施し、SNS を通じてイベントを知ったという方が、IEEE のホームページ経由やパンフレット経由で知った方よりを多い結果となったため、今後も SNS 発信は続けていきたい。アンケートを通じて Tokyo SIGHT にメールアドレスを提供頂いた方があり、会員数を 60%増やすことができた。イベントの収支については資料の通りだが、東京支部へ申請した予算については予算内で開催することができた。

（議題順番変更のため）

4. 委員会活動報告

・ Student Activities Committee （資料 4-6）

植村 SAC Chair より配布資料に沿った活動状況の報告があった。
LTWS が 6 月 30 日と 7 月 1 日に開催され、東京支部 SB からは 7 SB が参加した。なお、Tokyo YP プログラミング体験イベントの共催について、資料では理科大 SB となっているが、明治大 SB が正しい。今後の計画としては、11 月 24、25 日に SYWL Workshop 2023 を開催する予定である。なお、Student Paper Contest に関連してソウル支部の SAC Chair に 4 月と 7 月にメールを出したか、返信がない。そのため、2023 年に計上した関連する予算については、別の企画への支援する方向で検討したい。

６．その他【IEEE R10 HTC2025 の招致について】

滝嶋 Tokyo SIGHT Vice Chair より配布資料に沿って活動状況の報告があった。
スケジュールとしては、10 月 31 日までに申請書を提出し、12 月頃に開催地が決定する見込みである。本件は、東京支部として提案する予定なので、今後メール審議などを通じて理事会で承認頂きたい。会場である千葉商科大学は必要なエネルギーの 100%を自然エネルギーで賄っており、その点をアピールする予定。12 月頃にもし本提案が採択されたら、実行委員会を設立して本格的に活動を開始する。実行委員会には 20～30 名の方に入って頂きたく、ご協力をお願いしたい。

質疑応答では、2013 年に仙台で開催されたことに関する議論があり、滝嶋 Tokyo SIGHT Vice Chair より準備段階から情報共有していきたいとの回答があった。また、奥村 Secretary から、本件は今後正式な提案ができたらメールで審議する、というコメントがあった。